

ICCAEの活動

日本人研究者の研究技術をアフリカに植え付ける —農林水産省平成20年度「アフリカ農業研究者能力構築事業」受託—

海外の研究機関で研究する日本人研究者のもとにアフリカの若い研究者を招へいし、研究や講義と実習を行いながら、研究手法や物の見方・考え方を伝えていく農林水産省の事業を平成18、19年度に引き続き、20年度も受託しました。全世界からの応募は13件で、そのうち、オンザジョブトレーニング6件、グループトレーニング2件の合計8件が採択されました。その内訳は、CGIAR傘下の国際農業研究機関6件、WARDAで実施中のJICAプロジェクト1件、それに近畿大学がナイジェリアの国立穀物研究所と組んだ1件で、全体で8名の日本人研究者が20名のアフリカ人研究者を研修します。内陸小溪谷の水田造成（近畿大学）、灌漑計画用地の水生産性分析（IWMI西アフリカ事務所）、優良種苗増殖技術（IITA, CIAT）、カウピーの寄生雑草や乾燥耐性の形質評価（IITA）、自然と人為の森林に対する影響評価（CIFOR）、小麦病害の疫学分析（CIMMYT）それにネリカ栽培技術（WARDA）など日本の技術が少しずつアフリカに根付いていくことを期待しています。（浅沼修一）



野外でのGPS研修（国際森林・林業研究センター（CIFOR）（インドネシア））

オープンソースGISソフトを世界に広める —平成20年度JICA-GIS集団型研修の実施—

JICAから委託を受け、「GIS（地理情報システム）による天然資源・農産物の管理」研修の第4年目を8月～9月に実施しました。研修員はアルゼンチン（2）、ブルキナファソ（1）、スリランカ（2）、スワジランド（1）、マケドニア（1）それにミャンマー（1）の合計8名です。ICCAEの研究機関研究員1名も参加しました。途上国では入手が難しい市販のGISソフトウエアに替わるオープンソースのフリーソフトウエアLINUX-GRASSとそれを使ったリモートセンシング、それに研究成果をインターネット上で公開できるMapServerやGPS技術の習得が目的です。実習の他、これらの技術を実際に使っている日本人研究者を訪問し、技術の実用性と研究への利用に対する見聞を深めました。研修員は帰国後、職場の同僚や同国内の研究者や実務者に技術を広めていくことが求められていますが、2年前から主な対象国が固定されていますので、まとまった成果が現れやすいと期待しています。（浅沼修一）



岐阜県立森林文化アカデミーでのJICA-GIS研修

名古屋大学国際環境人材プログラムが開始

名古屋大学では世界が直面するさまざまな環境問題について具体的な方策を提案・実行できる将来の環境リーダーの育成を目的とする博士課程前期プログラムを開始します。2009年4月からアジア・アフリカ諸国等の留学生および日本の学生を受け入れます。

本プログラムでは以下の特色ある教育が展開されます。

- 問題事象の理解、対策技術の習得、制度設計・政策運営能力の獲得を重視した体系的な教育の実施。
- 中部地域の経済産業界、政府・自治体、NPO等と連携した人材の育成。
- すべて英語による講義・指導を行い、留学生と日本人学生が互いに啓発しあいながら学ぶことで、国際舞台での活躍に不可欠なコミュニケーション能力の向上。
- プログラムを終了した学生が母国や世界の各地で活躍できるよう様々な支援。

また、修了生には、所定の学位（修士（環境学）または修士（工学））とともにプログラム修了証書（certificate）を授与します。さらに高度な研究を希望する学生には、博士課程後期課程への進学之道が開かれています。

田 和 正 裕 国際環境人材育成プログラム 特任教授 シニアコーディネーター

（田和正裕）

略歴 1963年生れ。大阪府立大学大学院農学研究科博士前期課程修了後、国際協力事業団（JICA：現国際協力機構）に勤務。インドネシア事務所、企画部、無償資金協力部、農村開発部、国際協力人材部にて新規事業の企画立案、プロジェクト管理と国際協力人材の確保活用に従事。

